

海のそなえプロジェクト

- 2025年 調査[夏季速報] -



日本財団 海のそなえプロジェクト

例年夏になると増加する海や川での「水の事故」。

海のそなえプロジェクトは、危険を避けて、水辺を安全に楽しむための正しいそなえを、オールジャパンで推進することを目指しています。

日本財団、うみらい環境財団、日本水難救済会、日本ライフセービング協会の4団体で、3カ年計画で「海のそなえ」の新しい常識の浸透を図ることを目標としています。



今回発表する調査結果

毎年繰り返される水難事故の要因、シーンやシチュエーションの分析のため、水辺での溺れ事故について報道記事からデータ収集・分析を行う「夏季水難事故報道調査」を2024年より実施しています。

2025年は対象期間を伸ばし、GW及び6月にも調査を実施しました。

今回の発表内容は以下の通りです。

1. 2025年7月～8月の調査概要及び2024年7月～8月との比較
2. 2024年・2025年の7月～8月の各都道府県の水難事故者数の動向
3. 2025年GW・6月・7月・8月の各時期の傾向と比較
4. 調査サマリー
5. 参考資料(2025年6月1日～8月31日の調査結果)

調査概要

調査期間	期間Ⅰ；2025年4月26日～5月6日（GW） 期間Ⅱ；2025年6月1日～8月31日
事故対象	<ul style="list-style-type: none">■ 上記期間内に起きた海辺・水辺の溺れ事故〔水難事故〕■ 二次溺水（Ex. 車転落による溺水、船転覆による溺水）、自力帰還は対象■ 自殺、災害関連は対象外
溺水定義	自然水域・プールにおける溺水、または 溺水に繋がる状態・状況 https://uminosonae.uminohi.jp/column/definition/ 水難者の容体・状況；意識あり，意識なし，心肺停止，死亡，帰還不能，行方不明
対象水域	沖合、海岸、港・漁港、河川、湖沼池、プール、その他(ダム、用水路等)
対象範囲	日本全国
調査方法	<ul style="list-style-type: none">■ 全国紙（1社）、地方紙（45社）のデジタル新聞、全国紙データベース（1社）、地方紙収集サイト（1社）、放送局オンラインニュース（5社）にて溺水事故に関する記事を収集。■ 「溺れ」「溺水」「溺死」「行方不明」「水難」の5つの検索ワードを用いて、毎日検索し収集。

1. 2025年7月～8月の調査概要 及び2024年7月～8月との比較

1. 2025年7月～8月の調査概要及び2024年7月～8月との比較

報道された今夏の水難事故者数は269人で
昨年(2024年)の265人と同程度。週別推移の特徴も類似。

水難事故者数累計 2024年:265人 2025年:269人

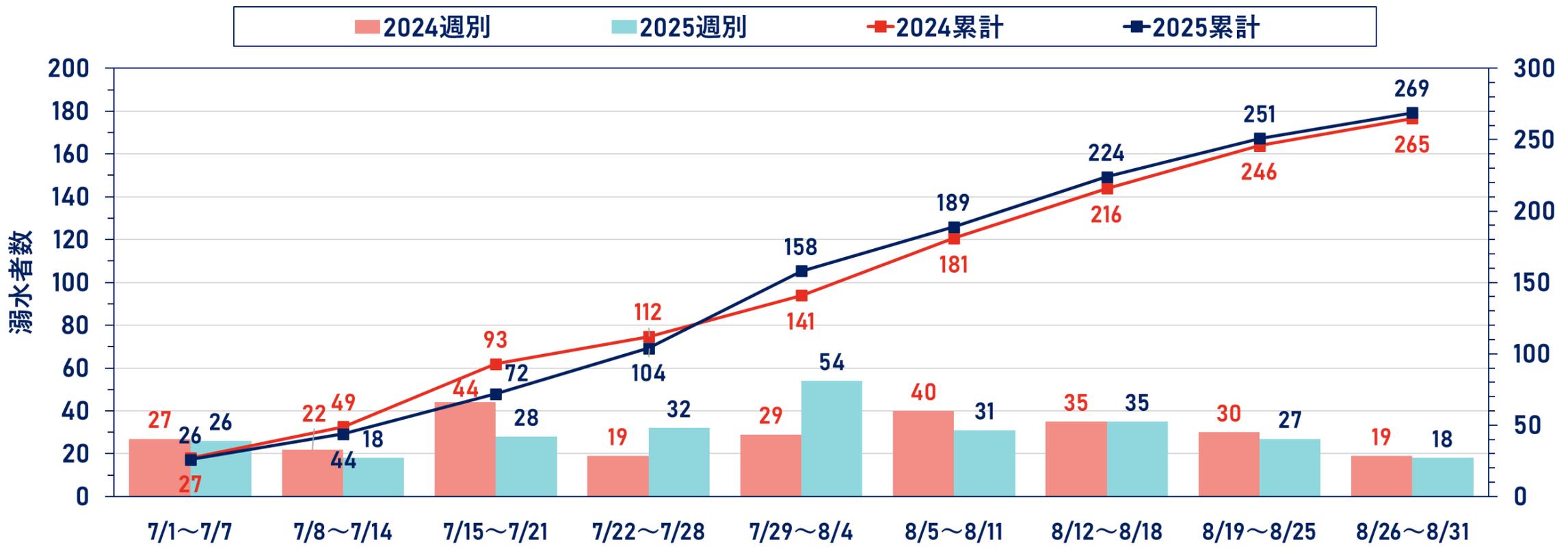


Fig. 1.1 溺水事故の7月・8月の週別推移 (2024年・2025年)

1. 2025年7月～8月の調査概要及び2024年7月～8月との比較

死者・行方不明者の割合、事故のあった水域、事故者の年代・行為・性別・利用状況は、2カ年で大きな違いはない。

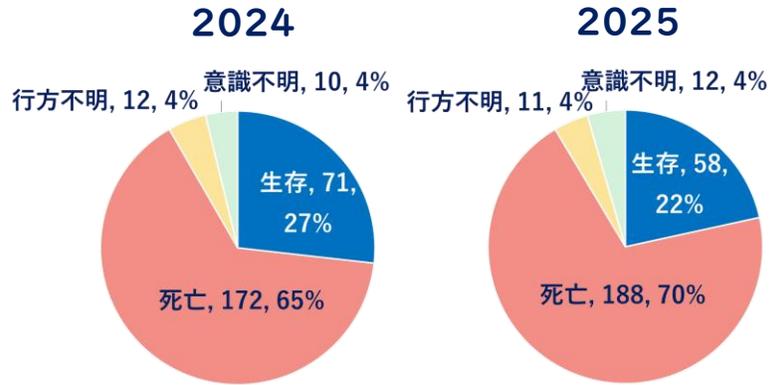


Fig. 1.2 水難事故者の内訳 [2024年・2025年]

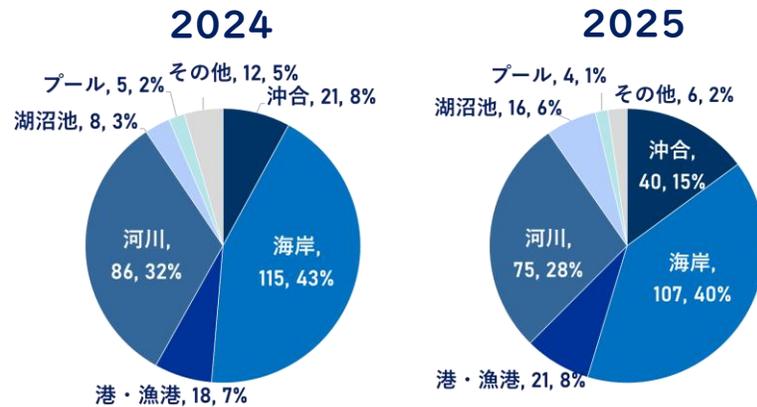


Fig. 1.3 水難事故の発生場所 [2024年・2025年]

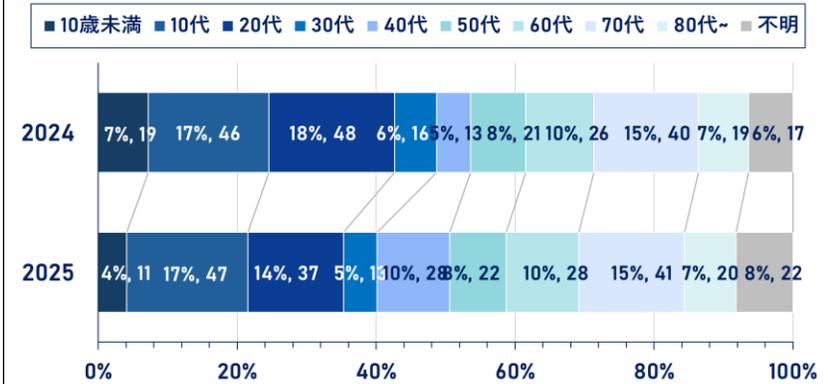


Fig. 1.4 水難事故者の年代別 [2024年・2025年]

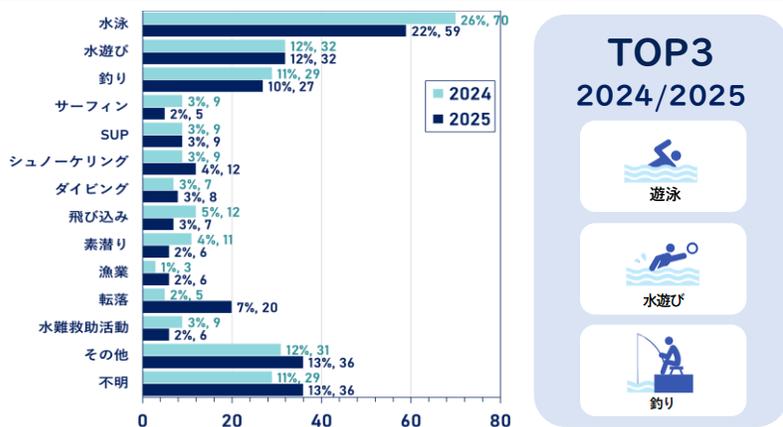


Fig. 1.5 水難事故者の行為 [2024年・2025年]

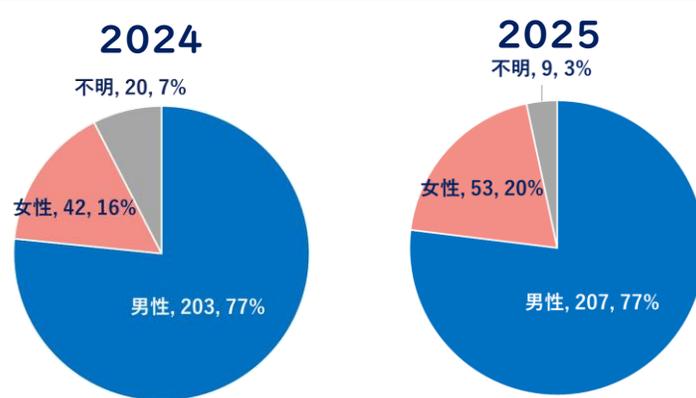


Fig. 1.6 水難事故者の性別 [2024年・2025年]

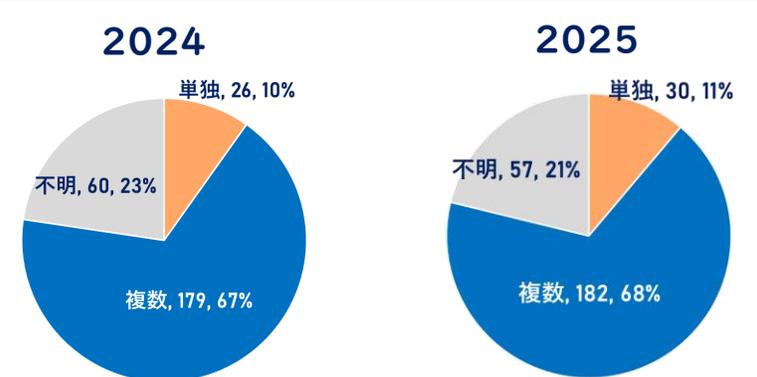


Fig. 1.7 水難事故者の利用状況 (単独、複数) [2024年・2025年]

1. 2025年7月～8月の調査概要及び2024年7月～8月との比較

外国籍の溺水者の割合は2カ年で大きく変わらない。
アジア圏の出身者が多く、特にベトナム人が多い。

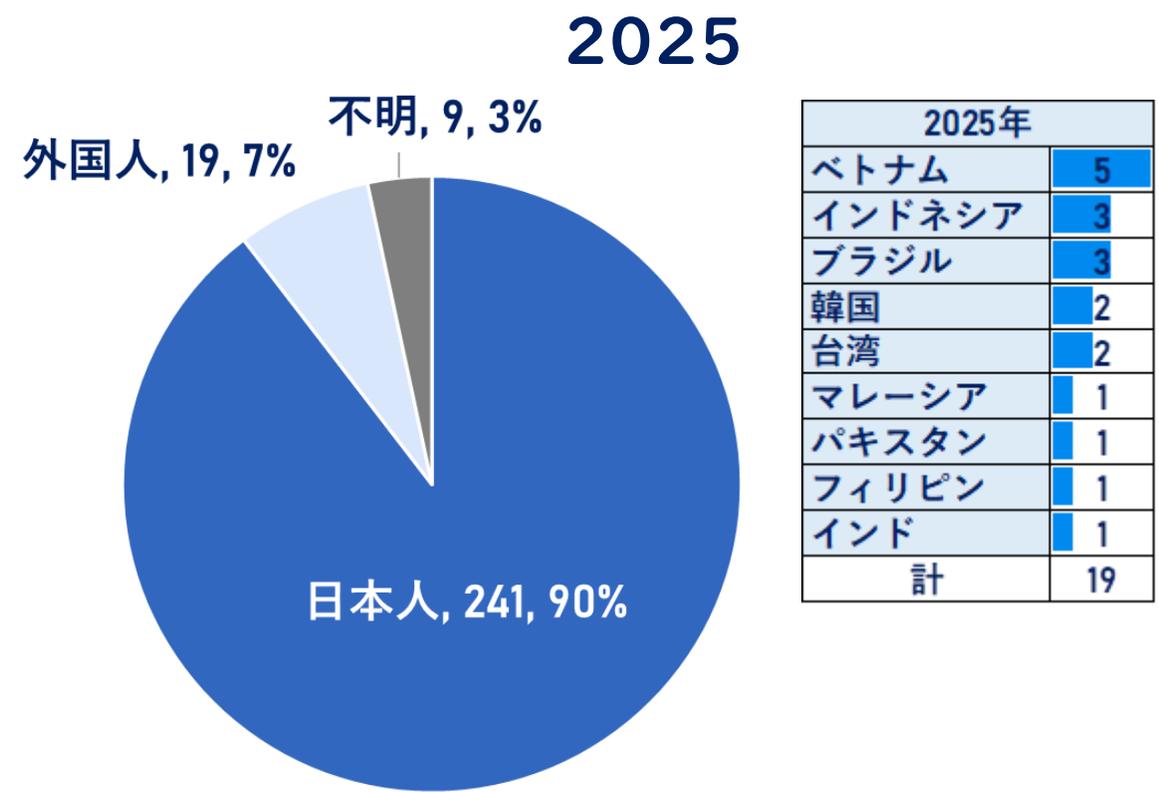
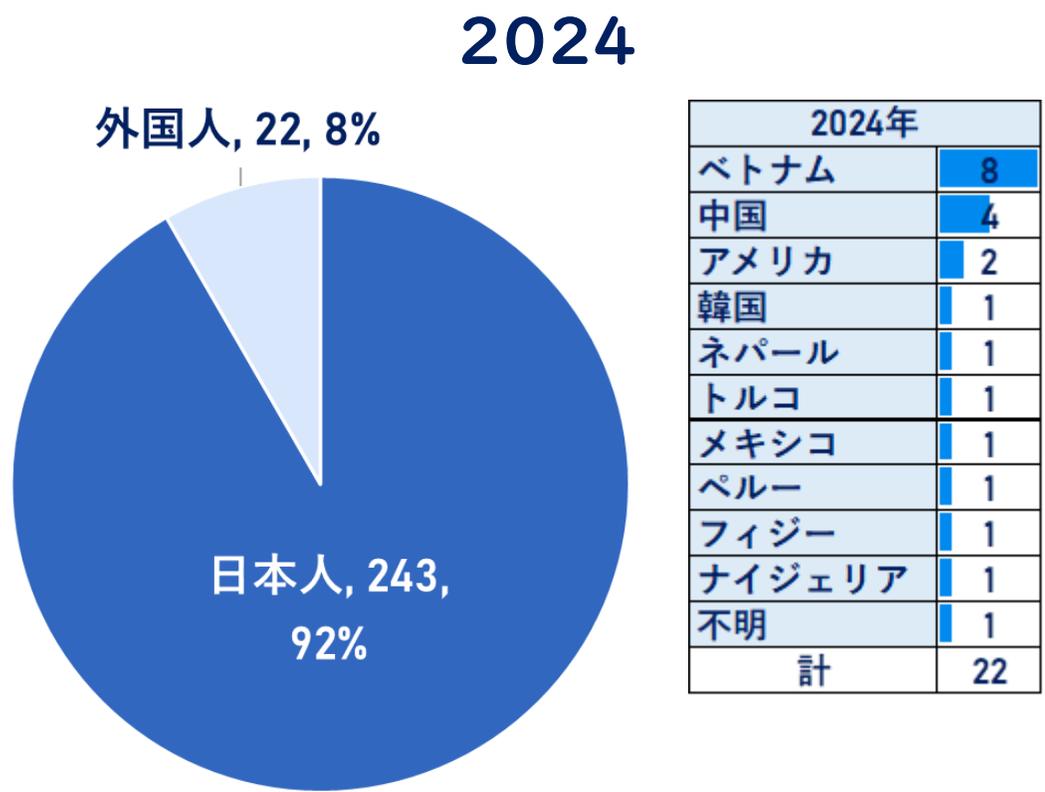


Fig. 1.8 水難事故者の国籍 [2024年・2025年（6月のデータを除く）]

2. 2024年・2025年の7月～8月の 各都道府県の水難事故者数の動向

2. 2024年・2025年の7月～8月の各都道府県の水難事故者数の動向

2カ年とも水難事故が多かった都道府県は、北海道、沖縄、神奈川。
いずれの道県でも水難事故者数が増加している。

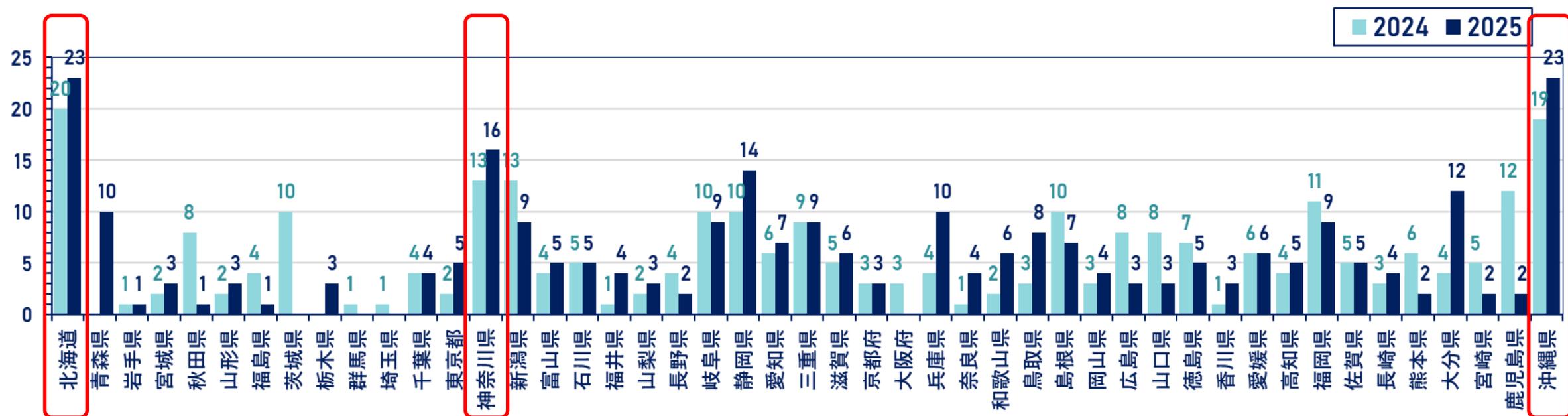
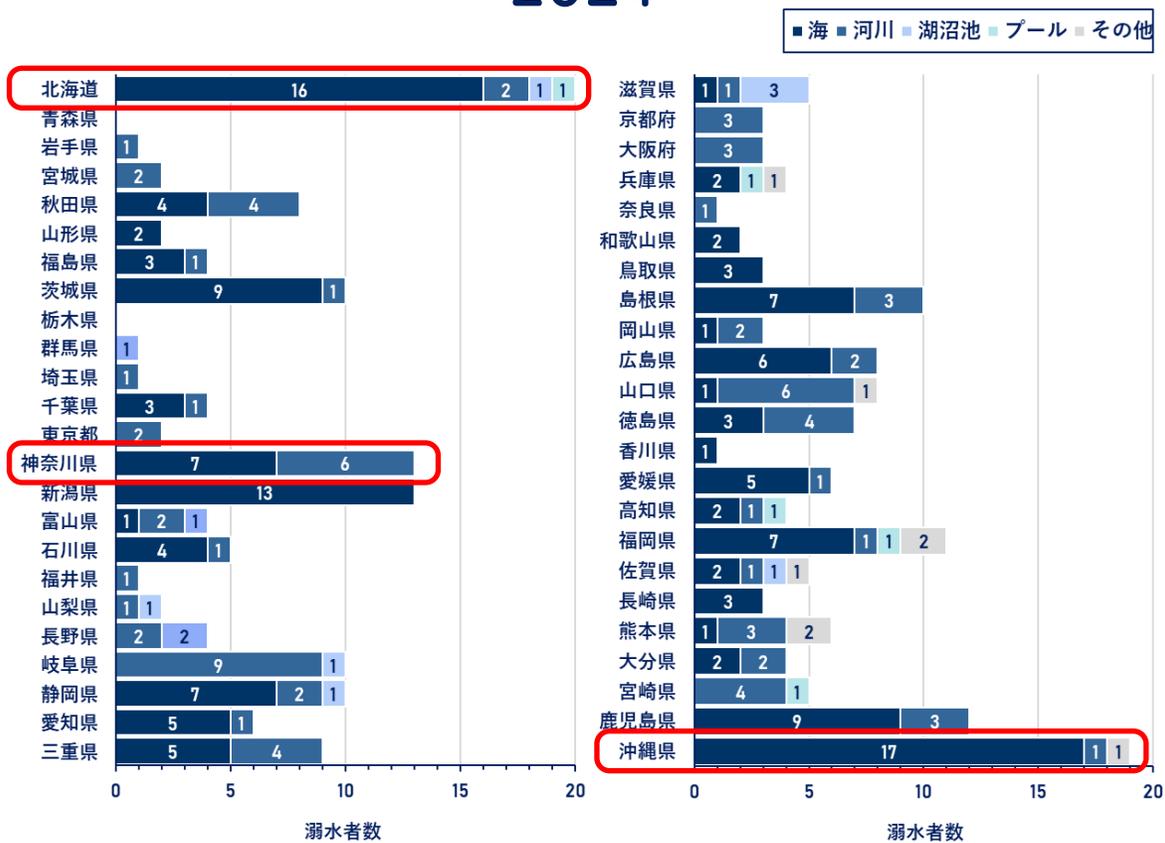


Fig. 2.1 都道府県別水難事故者数 [2024年・2025年]

2. 2024年・2025年の7月～8月の各都道府県の水難事故者数の動向

水難事故が多かった北海道、沖縄県、神奈川県では、
いずれの道県でも海域での事故が多い。

2024



2025

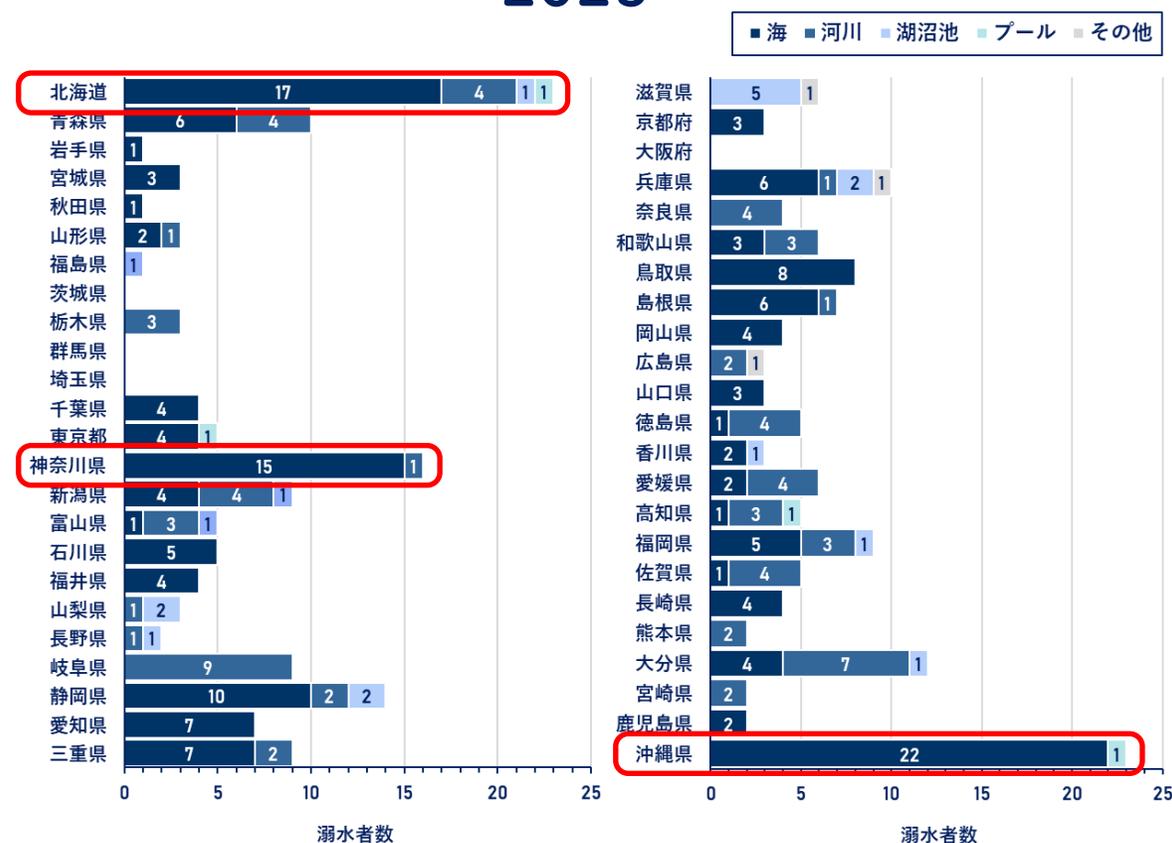
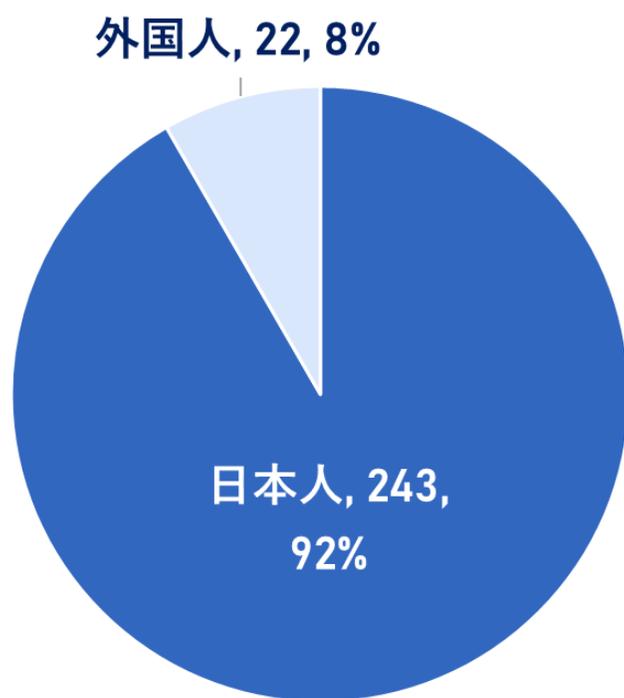


Fig. 2.2 都道府県別水域別水難事故者数

2. 2024年・2025年の7月～8月の各都道府県の水難事故者数の動向

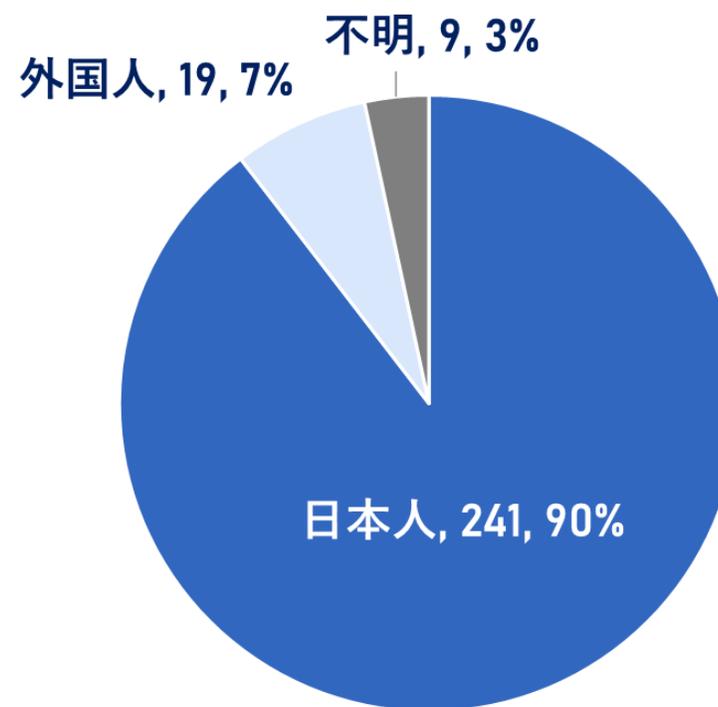
外国籍の溺水者数は、2024年は沖縄、三重、岐阜の順、2025年は岐阜、沖縄・石川の順となり、2年連続で岐阜、沖縄が多い。

2024



2024年	
沖縄	6
三重	4
岐阜	3
北海道	2
兵庫	1
東京	1
神奈川	1
滋賀	1
宮崎	1
静岡	1
愛知	1
計	22

2025



2025年	
岐阜	4
沖縄	3
石川	3
愛知	2
大分	1
千葉	1
香川	1
愛媛	1
徳島	1
滋賀	1
奈良	1
計	19

Fig. 2.4 外国人の水難事故の都道府県別発生場所

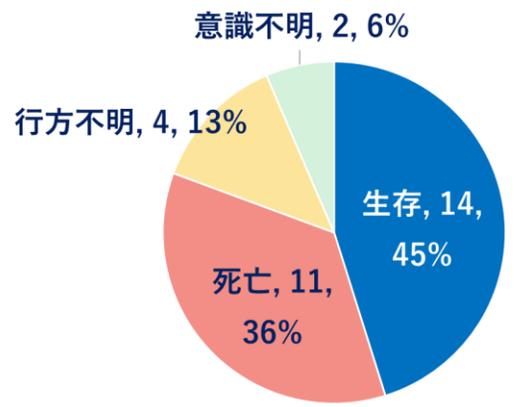
3. 2025年GW・6月・7月・8月の 各時期の傾向と比較

3. 2025年GW・6月・7月・8月の各時期の傾向と比較

水難事故者数は、6月から8月にかけて増加した。
死者・行方不明者の割合はGWが5割程度、6月～8月は7割以上。

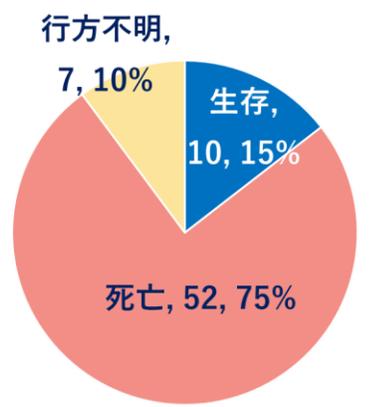
GW: **31**人

GW; 11日間、4/26~5/6



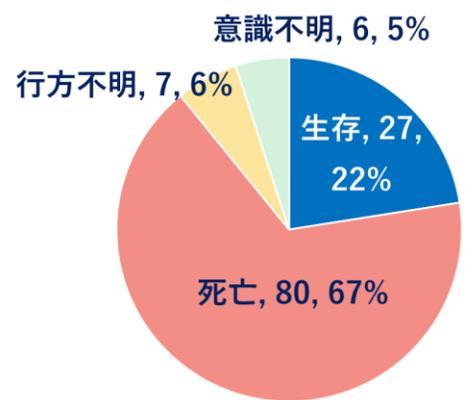
死者・行方不明者; **49%**

6月: **69**人



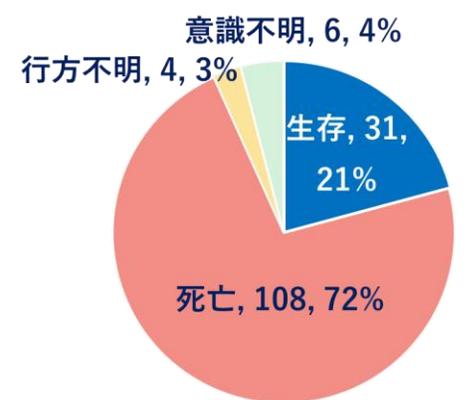
死者・行方不明者; **85%**

7月: **120**人



死者・行方不明者; **73%**

8月: **149**人



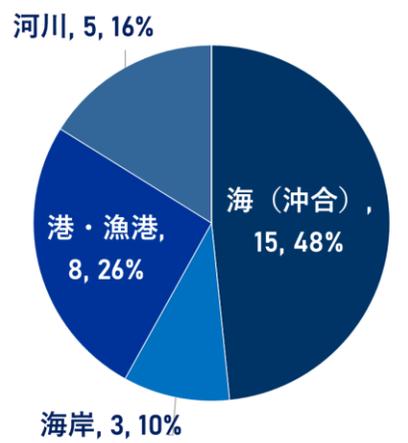
死者・行方不明者; **75%**

Fig. 3.1 水難事故者の内訳 [GW・6月・7月・8月]

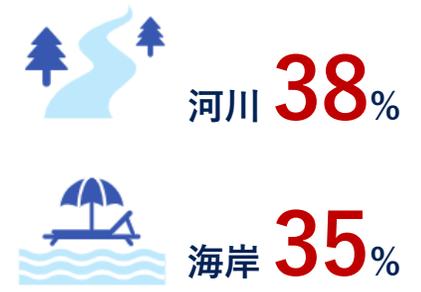
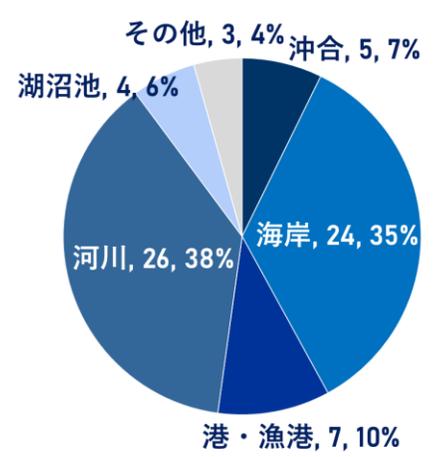
3. 2025年GW・6月・7月・8月の各時期の傾向と比較

水難の発生場所は、①GWは沖合、②6月は河川、海岸の順、③7月～8月は海岸、河川の順となり、時期によって異なる。

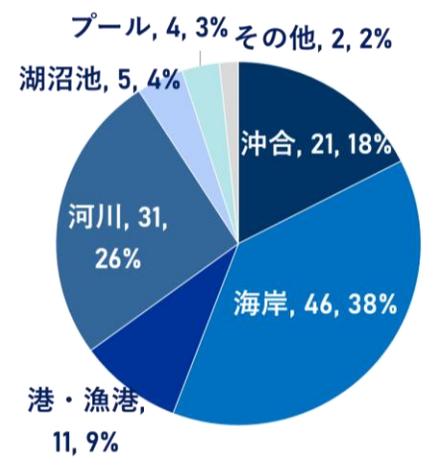
GW: 31人



6月: 69人



7月: 120人



8月: 149人

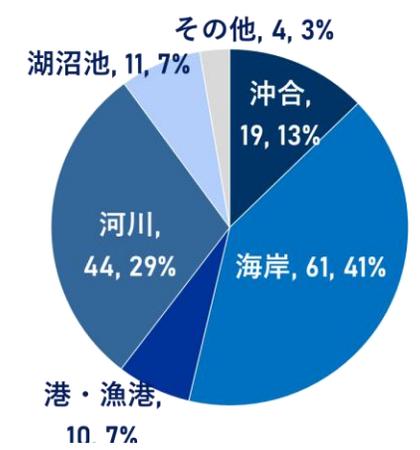


Fig. 3.2 水難事故の発生地域 [GW・6月・7月・8月]

3. 2025年GW・6月・7月・8月の各時期の傾向と比較

水難事故者は①GWは50代、②6月は60代、
③7月～8月は10代と70代が多く、利用目的の違いが推察される。

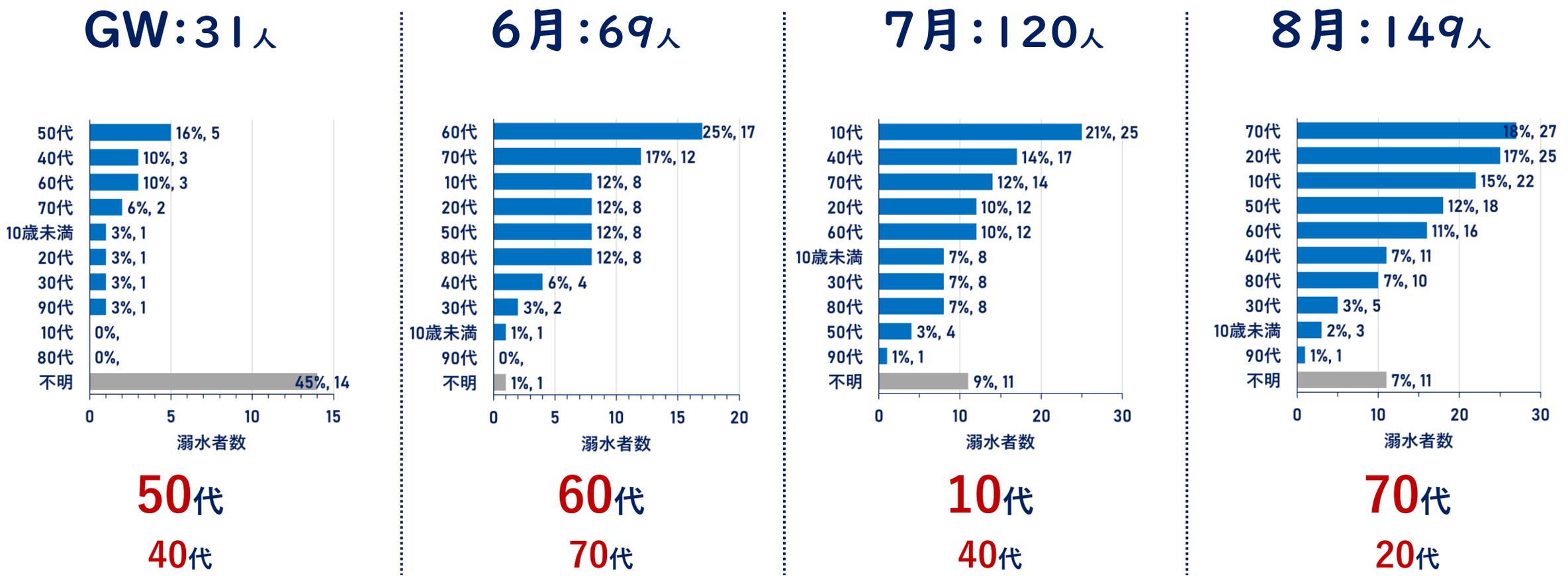


Fig. 3.3 年代別水難事故者数 [GW・6月・7月・8月]

3. 2025年GW・6月・7月・8月の各時期の傾向と比較

水難事故者の行為は①GWは漁業、②6月は釣り、③7月～8月は遊泳が多い。釣りは全ての時期で上位3位に入る。

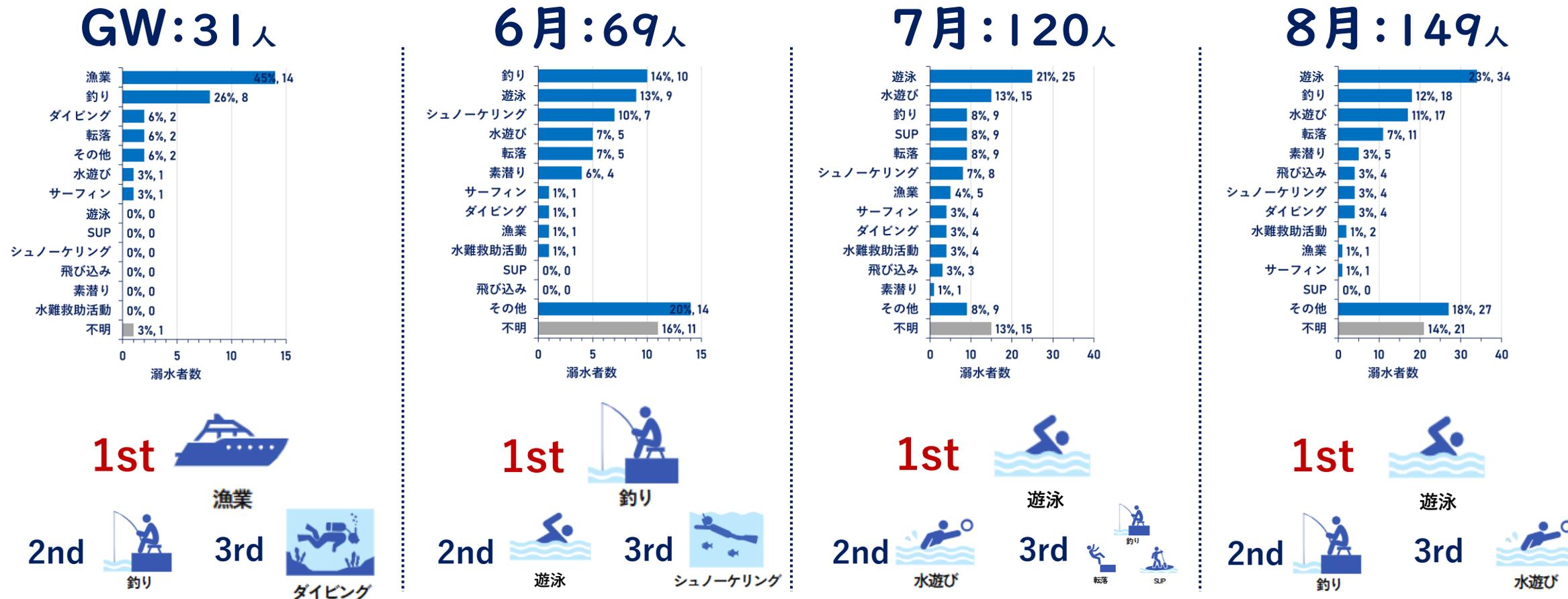


Fig. 3.4 水難事故者の行為 [GW・6月・7月・8月]

6月は7～8月に比べて単独利用が多く、釣りが多いこととの関係も考えられる。

GWと7月～8月の水難事故者は来訪者が約半数を占める一方、6月の水難事故者は地元住民が約半数である。

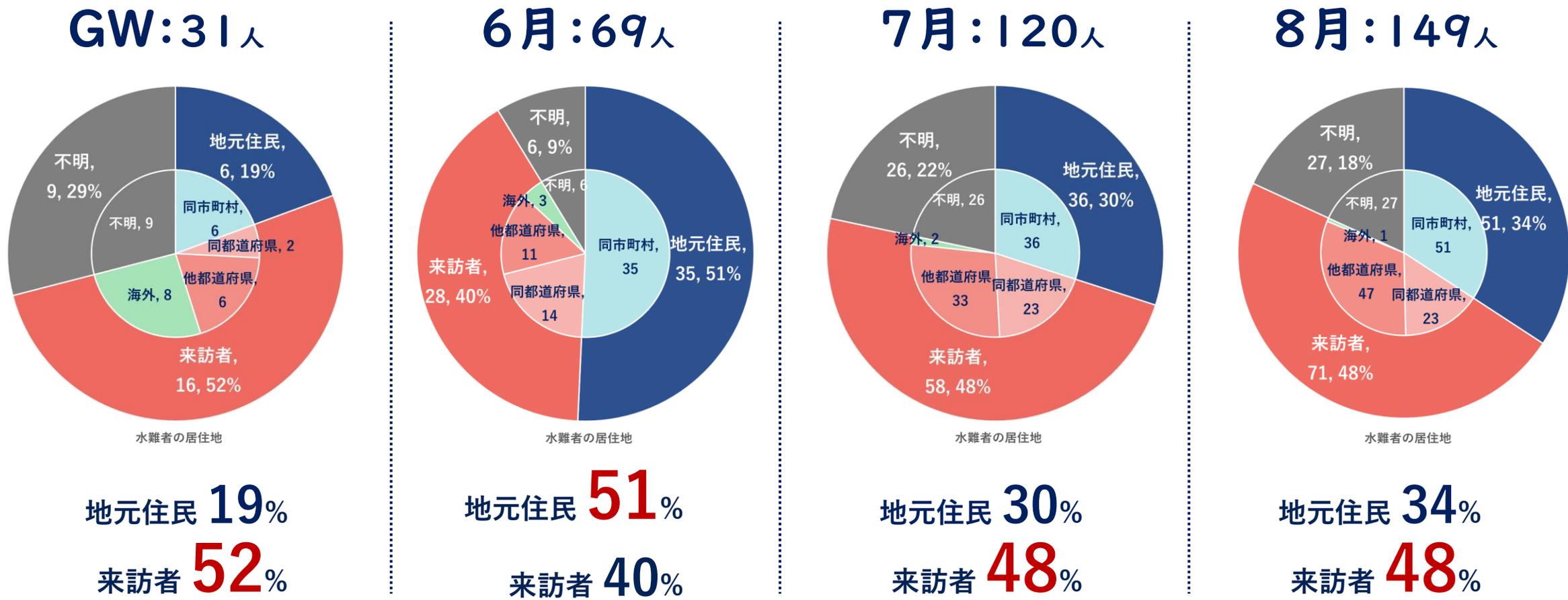


Fig. 3.5 水難事故の発生場所と居住地 [GW・6月・7月・8月]

4. 調査サマリー

- 7月～8月の水難事故者数は2024年、2025年ともほぼ同数で、週別の発生件数の推移や水難事故者の属性・行為も類似。事故の発生要因において、人の行動の影響が大きい可能性がある。
- 2024年、2025年とも事故件数上位3道県で海域での発生が多数。事故者は北海道・沖縄は来訪者が多いが、神奈川は4割程度が地元住民。上記3道県に限らず都道府県や地域ごとの傾向や特性の検証が必要。
- GW、6月、7月～8月と時期によって事故が多くなる水域や、水難事故者の多い年代・居住地・行為には差があった。いつ、誰へ、どんな発信が事故防止に有効かの根拠となるデータが得られた。

- 外国人の水難事故者は2024年、2025年ともアジア圏出身者が多く、特にベトナム人が最多。都道府県ごとでは岐阜県、沖縄県が多い。発信する情報の多言語化や、効果的な発信経路を検討する必要がある。
- 調査結果の蓄積により、時期や地域、事故者の属性・行為による水難事故の発生傾向が明らかになりつつある。データの検証を進め、適切な時期・場所・対象に応じた発信を開発する。

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

概要

2025年6月1日～8月31日の期間において、報道された全国の水難事故は280件、水難事故者数は338人であった。死亡は約7割、生存は約2割。死亡は約7割、生存は約2割。

水域別

水難事故の発生場所は海岸が最も多く(39%)、次いで河川(30%)であった。海域(沖合、海岸、港・漁港)が全体の6割を占める。

水難事故件数: **280**件 水難事故者数: **338**人 (9/2 現在)

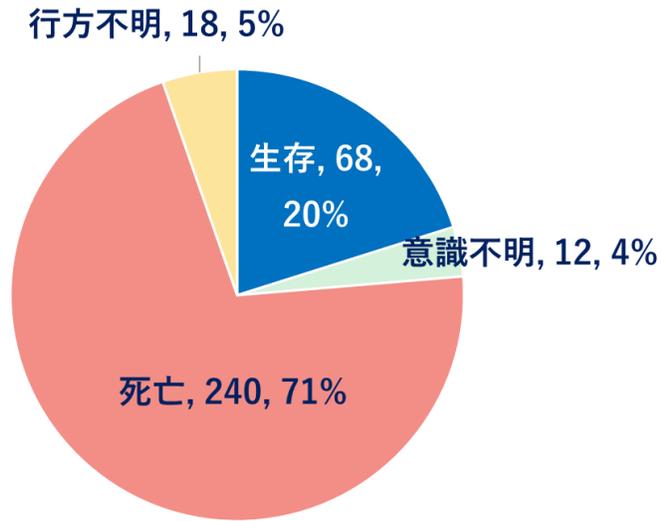


Fig. 5.1 水難事故の内訳 (生存、死亡、意識不明、行方不明)

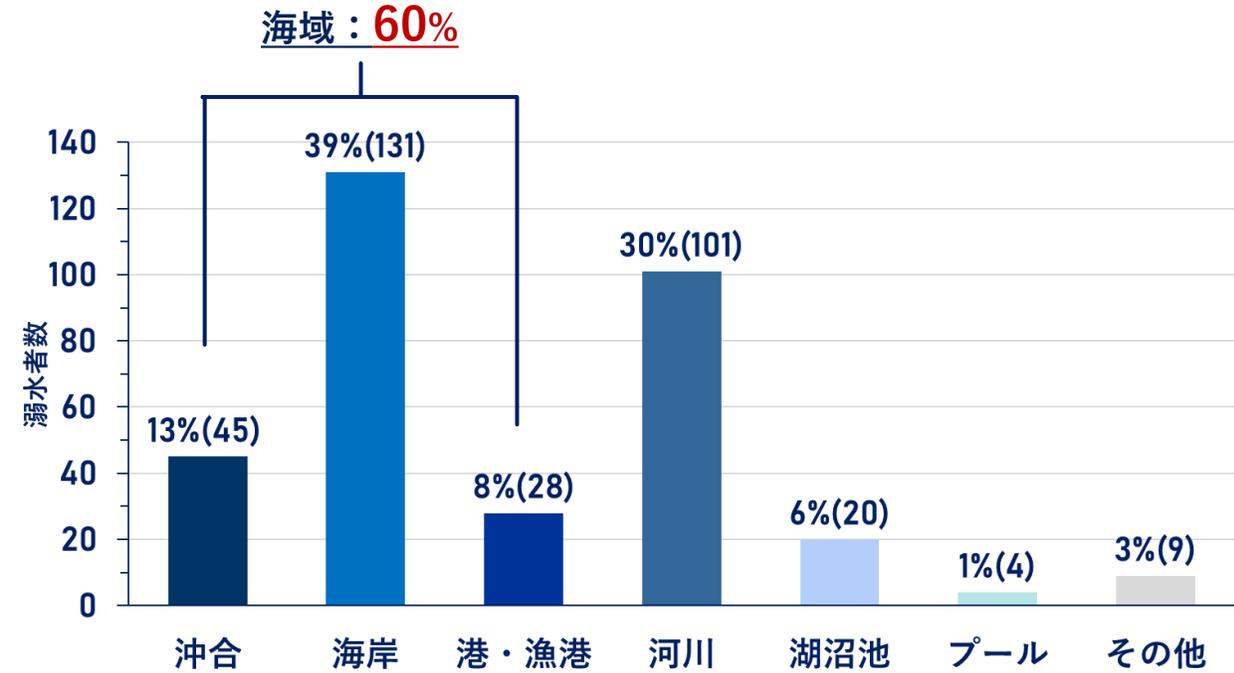


Fig. 5.2 水難事故の発生場所

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

性別
 男性は約8割を占め、女性の3.8倍であった。

年代
 10代が最も多く(55人)、次いで70代(53人)、60代(45人)であった。
 どの年代も男性の方が多い。

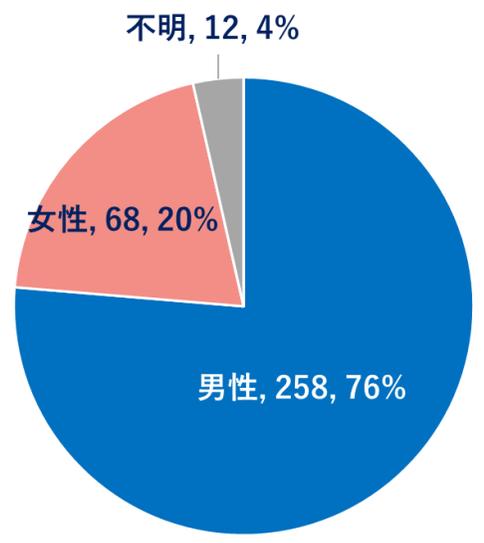
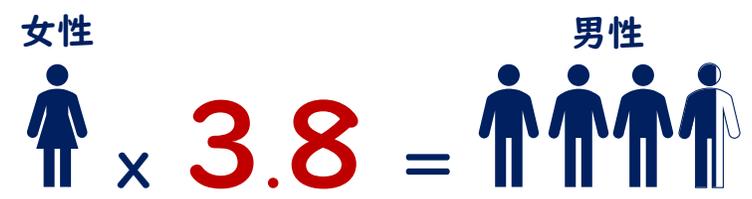


Fig. 5.3 水難事故者の性別

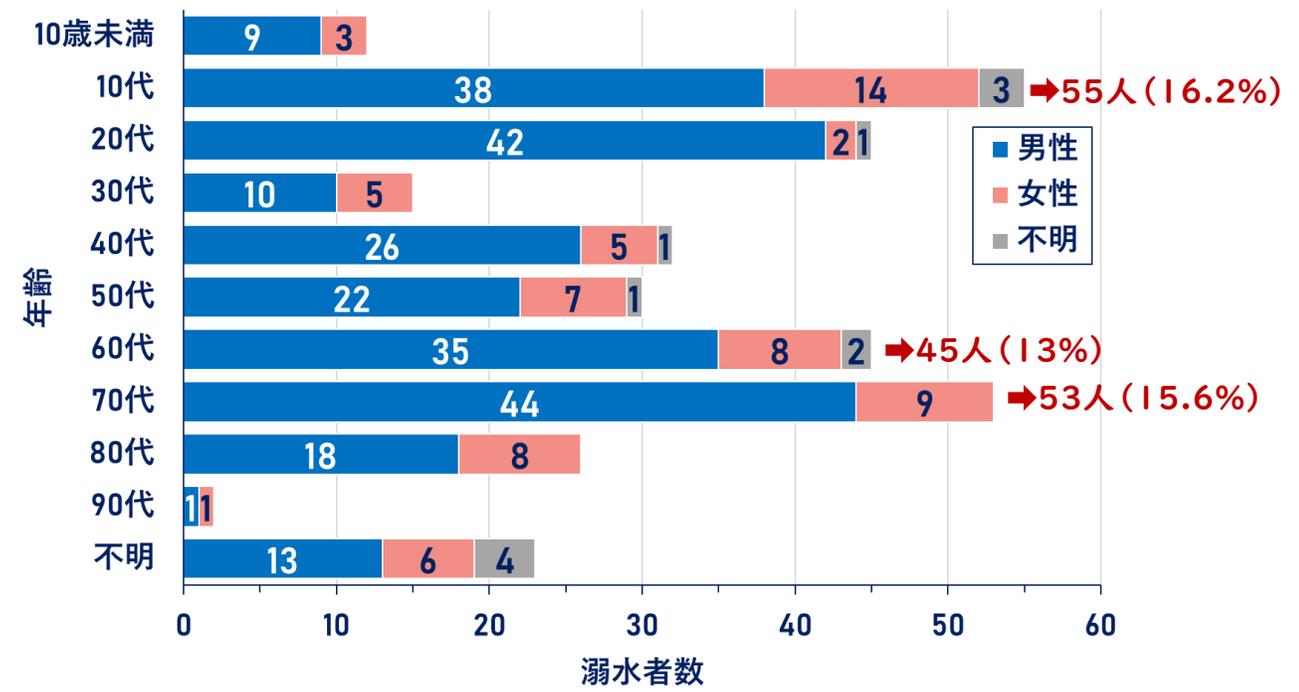


Fig. 5.4 水難事故者の年齢別・性別

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

行為別
水難事故発生前の行為は、遊泳が最も多く(20%)、次いで水遊び(11%)、釣り(11%)であった。

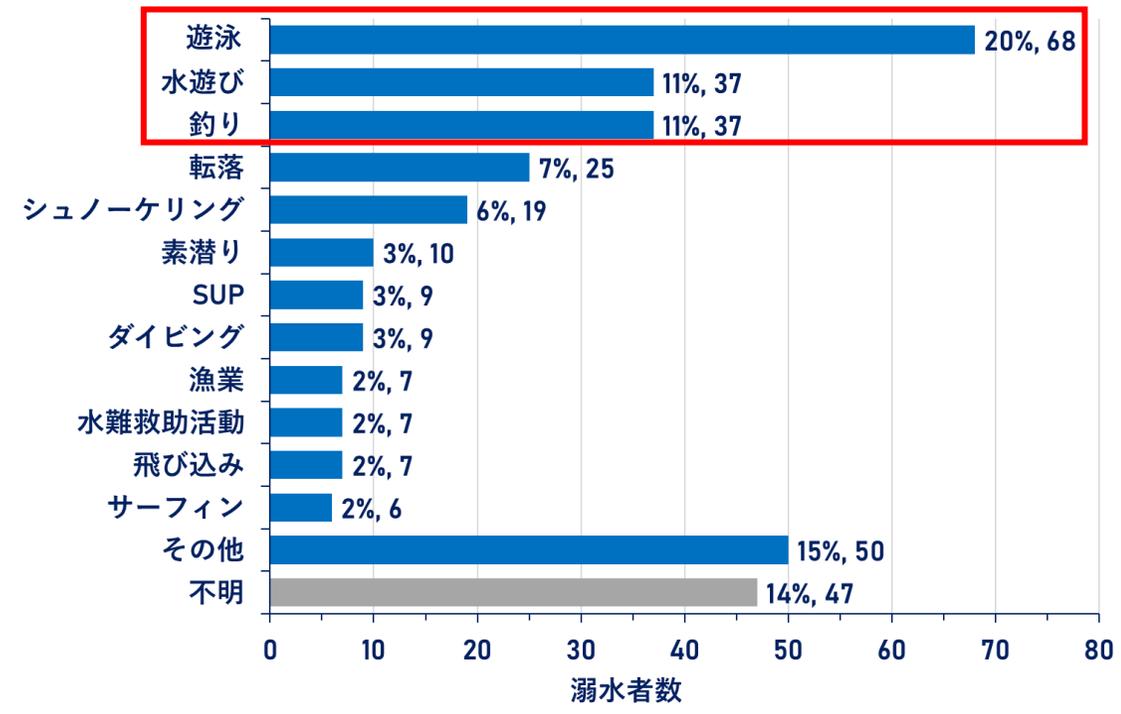


Fig. 5.5 水難事故発生前の行為

TOP5

-  **20%**
遊泳
-  **11%**
水遊び
-  **11%**
釣り
-  **7%**
転落
-  **6%**
シュノーケリング

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

都道府県別

調査期間での水難事故は、**沖縄県が最も多く**(33件、10%)、次いで**北海道**(27件、8%)、**神奈川県**(19件、6%)であった。

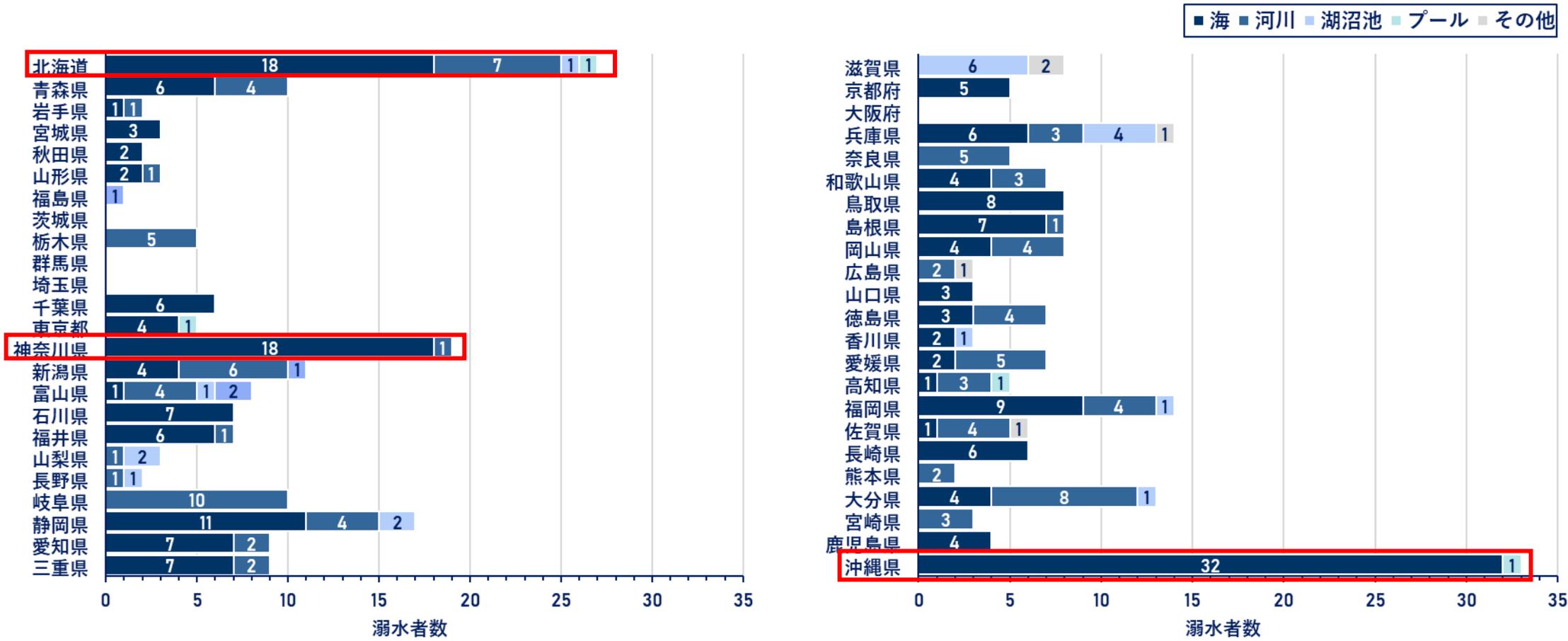


Fig. 5.6 都道府県別水難事故者数

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

午前/午後
水難事故発生の時間帯は午後が多く、約5割であった。

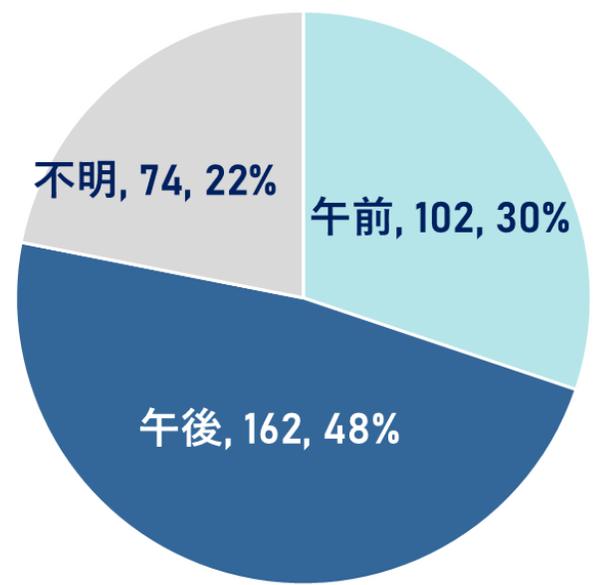


Fig. 5.7 水難事故発生の時間帯

国籍
水難事故者の国籍では、外国人が8% (26人)であった。
内訳はベトナム(5)、インドネシア(4)、韓国(3)、ブラジル(3)、台湾(2)、アメリカ、中国、ミャンマー、マレーシア、パキスタン、フィリピン、インド(各1)、不明(2)であり、アジア圏が多い。

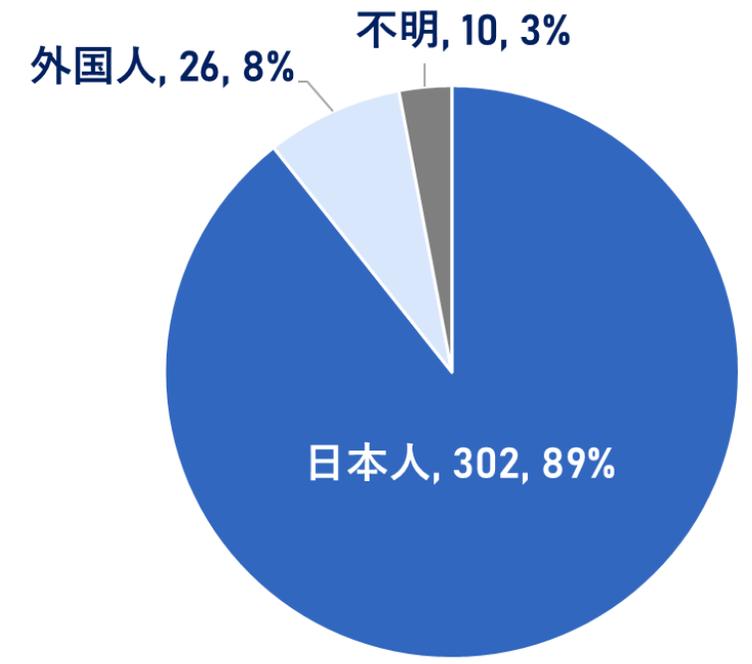


Fig. 5.8 水難事故者の国籍

5. 参考資料 (2025年6月1日～8月31日の調査結果)

日付
 水難事故が最も多かったのは、**8月1日(金)**と**8月4日(月)**で、それぞれ**11人**であった。
 曜日別では、**日曜日(24%)**に事故が多く、次いで**土曜日(20%)**であった。

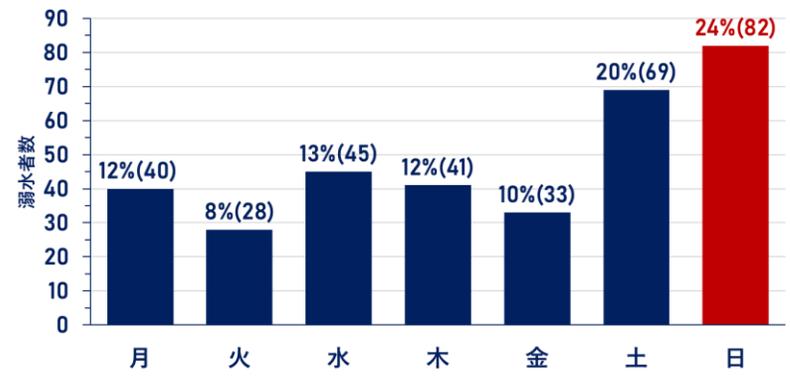


Fig. 5.10 曜日別水難事故者数 (6月～8月平均値)

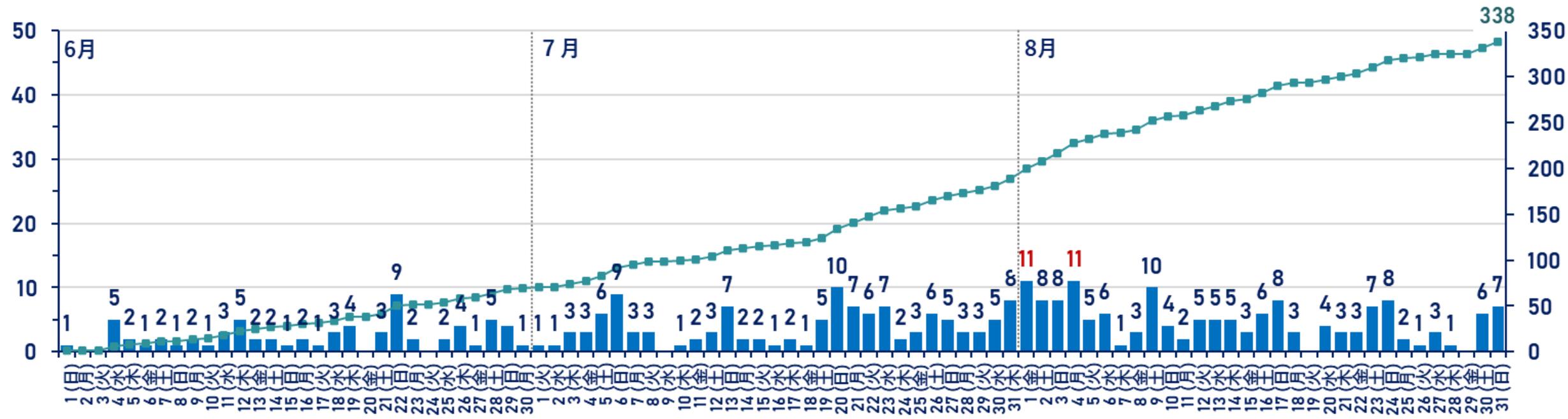


Fig. 5.9 水難事故の推移 (6月～8月)